

2003 年 2 月 20 日

各 位

札幌市中央区北 9 条西 15 丁目 28 番地 196
株式会社ソフトフロント
代表取締役社長 村田 利文
(コード番号:2321)
問い合わせ先:
取締役/管理本部担当 山本 明彦
電話番号:011-623-1001

SIP パートナープログラム事業に関するお知らせ

株式会社ソフトフロントは、従前当社が実施してまいりました各種事業の中から、標記の事業へ特化することといたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 背景

当社は、創業以来、VoIP に関する基礎的な技術開発と共に、VoIP を核技術とした周辺技術及び関連分野技術の開発により、“新しくかつリッチなコミュニケーション環境を提供する”ことを企業の理念として、事業を展開してまいりました。

この間、当社では、VoIP に関する先駆的な企業として、基礎技術・核技術の開発に始まり、アプリケーション開発、顧客へのカスタマイズ(場合によっては、導入後のサポート業務)までを包括する様々な事業を行ってまいりました。これらの活動の成果は、KISARA シリーズ等の VoIP ソリューションパッケージの提供や、高度な VoIP 関連受託などを通して、一定の成果を収めてまいりました。

しかしながら、昨年夏以降の IP 電話の普及により VoIP 技術の導入・採用が急速に広まる中で、当社は、当社技術のいち早い普及こそが最重要課題であると考えに至り、現在の優位性を積極的に生かしつつ、市場での高いシェアを確保するため、これまで実施してきた各種事業を絞り込むことが適切であると決断いたしました。

具体的には、これまでの VoIP に関する包括的な各種事業の中から、当社が培ってきた VoIP に関する技術やノウハウを多数のメーカーやシステム・インテグレーターに提供し、それらのパートナー企業を通じて当社の技術の普及を図るビジネスモデルを選択し、ここに特化することといたしました。現在、通信業界や電子機器業界に SIP 技術の利用が広まりつつあり、当社の技術への引き合いが多くなっております。今後は、これらの企業に対して、再利用しやすい形で技術を販売するシンプルなビジネスモデルで、当社の技術の更なる普及に努めてまいります。

このビジネスモデルの選択により、当社の強みであり、かつ競争優位性に長けた「VoIP エンジン及び SIP 関連技術」に当社の経営資源を集中することが可能となると共に、現在保有する知的財産を活用した高収益企業への転換と、VoIP 市場の拡大に対応した新たなアライアンスによる商圏の獲得が確実なものになると確信しております。

なお、このビジネスモデル特化のために、特別な開発や製品化などの投資は不要です。当社が従来より研究開発を行い、当社の製品のベースとしてきた技術を、修正・変更可能な形で提供いたします。

2. SIP パートナープログラム事業

当事業の概要は、次のとおりです。

- (1) 様々な分野に分散していたビジネス領域を、VoIP エンジン及び SIP 関連技術に絞り込む。
- (2) VoIP ソリューション市場に対する SIP 技術・ノウハウの開発・コンサルティング提供への特化。
- (3) 具体的には、以下の 2 点に集中する。
 - ① 現在業界内で非常に認知度が高く、先進的技術として高い評価を得ている当社 SIP 技術の開発環境の提供。
※開発環境:開発支援パッケージ(当社が既に保有する SIP 関連ソースプログラム等)
 - ② 同開発環境に対する技術支援(コンサルティング・開発支援を目的として当社エンジニアを導入企業へ派遣)。
- (4) SIP パートナープログラムの浸透により、当社 VoIP エンジン及び SIP 関連技術におけるデファクトスタンダード獲得を目指す。

※別紙、『「SIP パートナープログラム」の概要』を参照。

以上

「SIPパートナープログラム」の概要

1 背景

● 外部環境

● 2003年が「IP電話元年」

- 日本のIP電話市場が急速に立ち上がる。
- この分野ではSIPの採用が急速に拡大。
電話網接続機器、交換機、端末機、PC。さらにPDA、家電なども。

● 内部環境

- 第一フェーズ(技術開発と検証)を終え、第二フェーズ(技術の普及)へ。
- 昨年夏以降、IP電話の普及によりVoIP市場が拡大する中、当社の技術のいち早い普及が最重要課題と判断。
- 全てを自社で直接担当するのではなく、
パートナーに当社技術を導入してもらい、開発を支援することにより、
当社技術の急速な普及を。
- 当社技術の根幹部の提供に特化し、根幹部のシェアを最大化することが
短期的にも中長期的にも得策。

2 当社の基礎技術・核技術

● 業界内で高い評価

- SIPの核技術と、SIPの最新応用技術を自社で保有。
- SIPの最新技術によるサービス構築で先行。
 - 基礎技術開発・アプリケーション構築・設置調整を全て担当した実績。
 - 大手通信事業者で実装。
- SIPの接続実証や実装実績を通じた豊富なノウハウの蓄積。

3 事業特化の概要

現ビジネスモデル

(対象:事業者)

基礎技術・核技術の開発

- ・アプリケーションの開発
- ・顧客へのカスタマイズ
- ・導入後のサポート



新ビジネスモデル

名称:「SIPパートナープログラム」

(対象:メーカー・Sier・研究開発機関等)

開発環境の提供

当社が既に保有するSIP関連ソースプログラム等

技術支援

当社エンジニアをコンサルティング・教育支援を目的として導入企業へ派遣

4 SIPパートナープログラムの概要

● 「SIPパートナープログラム」

- 先進的な当社SIP技術を、様々なメーカーやSierに提供する。
- サービス内容
 - 現在業界内で非常に認知度が高く、先進的技術として高い評価を得ている当社SIP技術の開発環境を「開発支援パッケージ」として提供
※開発支援パッケージ：
当社が既に保有するSIP関連ソースプログラム等
 - 当社エンジニアを導入企業に派遣し、コンサルティング、SIPサービスの構築方法、開発支援、教育などを支援
- パートナーのメリット
 - 開発リソースの低減、開発期間の短縮、他社製品との接続性の向上など。

5 事業特化のねらい

- ・現有する知的財産の活用
- ・得意分野への集中
- ・アライアンスによる、保有技術の早期普及
- ・VoIP・SIP市場の拡大

VoIPエンジン及びSIP関連技術
の
デファクトスタンダード獲得